

証券コード 2228

平成27年11月5日

株 主 各 位

山形県山形市蔵王松ヶ丘二丁目1番3号

**株式会社 シベール**

代表取締役社長 佐 島 清 人

## 第45期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第45期定時株主総会を下記により開催致しますので、ご出席下さいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席おさしつかえの場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成27年11月22日（日曜日）午後5時15分までに到着するようご返送下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成27年11月23日（月曜日）午前11時（受付開始 午前10時）
2. 場 所 山形市蔵王松ヶ丘二丁目1番3号 シベールアリーナ
3. 目的事項  
報告事項 第45期（平成26年9月1日から平成27年8月31日まで）事業報告並びに  
計算書類報告の件

### 決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 監査役1名選任の件

以 上

- 
1. 株主総会参考書類、事業報告及び計算書類に修正すべき事項が生じた場合は、当社のウェブサイト（<http://www.cybele.co.jp/>）に掲載致します。
  2. ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出下さいますようお願い申し上げます。なお、実際にご出席の株主様には、ささやかなお土産を準備しておりますが、実際にご出席の株主様お1人につき、1つとさせていただきます。

(添付書類)

## 事業報告

(平成26年9月1日から  
平成27年8月31日まで)

### 1. 会社の現況に関する事項

#### (1) 当事業年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

当期におけるわが国経済は、政府の月例経済報告によりますと、ほぼ1年にわたり、「緩やかな回復基調が続いている」と判断されております。一方、当社の事業が依存する個人消費につきましては、消費増税の駆け込みに対する反動減の後、一進一退が続き、回復基調には至りませんでした。また、期中に中国の株価が大幅に下落し、為替や商品価格にも動揺が広がる等、世界経済は予断を許さない状況となりました。

このような環境の下、当社は、これまで同様「菓子店は街のオアシス」をテーマに地域社会になくってはならない存在を目指して、諸施策を実施して参りました。

全社売上高は、一部店舗を閉鎖したこと等から、前期に比べ1.5%減少し、3,416百万円となりました。損益につきましては、原価率の低減と販売費及び一般管理費の圧縮に努めた結果、大幅に改善し、営業利益62百万円（前期は営業損失28百万円）、経常利益58百万円（前期は経常損失30百万円）、当期純利益26百万円（前期は当期純損失100百万円）とそれぞれ黒字転換致しました。

部門別の売上高につきましては、次の通りであります。

(単位：百万円)

事業部別	品目	前期 売上高	当期 売上高	前期比(%)
P I S 事業部	ラスク	758	807	106.4
	その他焼菓子等	135	144	107.2
	洋生菓子	31	28	89.6
	パン	0	—	—
	計	926	980	105.9
M I S 事業部	ラスク	667	613	91.9
	その他焼菓子等	426	424	99.4
	洋生菓子	397	385	96.9
	パン	716	711	99.2
	料飲	333	301	90.3
	計	2,542	2,435	95.8
合 計		3,468	3,416	98.5

### 《P I S 事業部》

通信販売を中心とするP I S 事業におきましては、新商品の投入とカタログの送付回数を増やしたこと等により回復基調となり、売上高は前期に比べ5.9%増加し、980百万円となりました。セグメント利益(営業利益)は、売上増と経費や原価の圧縮から前期に比べ35.8%増加し、183百万円となりました。

### 《M I S 事業部》

店舗販売を中心とするM I S 事業におきましては、1店舗と一部レストランを閉鎖したこと等から、売上高は前期に比べ4.2%減少の2,435百万円となりましたが、セグメント利益(営業利益)は、経費や原価の圧縮から前期に比べ18.8%増加し、214百万円となりました。

#### ② 設備投資の状況

当事業年度に実施した設備投資の総額は37百万円であり、その主なものは、「麦工房 川崎アゼリア店」の開設、配送用車両買替等であります。

#### ③ 資金調達の状況

特記すべき事項はありません。

#### ④ 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

#### ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

#### ⑥ 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

#### ⑦ 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況

該当事項はありません。

## (2) 財産及び損益の状況の推移

区 分	第42期 平成24年8月期	第43期 平成25年8月期	第44期 平成26年8月期	第45期 平成27年8月期
売 上 高 (百万円)	3,649	3,569	3,468	3,416
経常利益(△は経常損失) (百万円)	82	△28	△30	58
当期純利益(△は純損失) (百万円)	△18	14	△100	26
1株当たり当期純利益 (△は純損失) (円)	△1,036.69	888.87	△69.87	18.70
総 資 産 (百万円)	4,120	4,007	3,829	3,487
純 資 産 (百万円)	2,786	1,906	1,773	1,757
1株当たり純資産額 (円)	154,236.57	132,683.23	1,234.12	1,223.00

(注) 当社は、平成26年3月1日付けで、普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。第44期の1株当たり当期純損失及び1株当たり純資産額は当該分割が第44期の期首に行われたと仮定して算定しております。

## (3) 重要な親会社及び子会社の状況

該当事項はありません。

## (4) 対処すべき課題

わが国は、今後急速に高齢化が進み、人口が減少することが予想されております。また、お中元やお歳暮の習慣がこの数十年で大きく廃れていることが報じられており、その傾向は、さらに強まることが予想されております。

国内の「食」とその「贈り物」の分野に事業基盤を置き、「日本の食卓の情景、ゆかしい贈り物の風習を豊かで創造的なものにする」ことを社是とする当社の経営環境は、より厳しくなっていくものと考えられます。

このような経営環境下で、当社は企業基盤の強化のために、以下の諸施策を推進していく所存です。

将来を見据え、(1) 過去の延長線上からの脱却、(2) 損益分岐点引き下げのための構造改革、(3) 社員の経営参加に向けた風土作り、の方針の下、一つひとつ改革を実施して参ります。具体的には、従来の商品別の事業部制を廃止し、営業本部・生産本部・管理本部の機能別組織体制に移行させます。同時にスタッフ機能を充実させ、組織総合力の向上を図ります。また、人材を最も貴重な「オフ・バランス資産」と認識し、その育成に注力すると共に、会社の目標と個人の目標がリンクした人事考課制度を導入して、社員のモチ

バージョンと経営参画意識を高めて参ります。

営業戦略においてもゼロベースで見直し、新しい取り組みを行って参ります。具体的には、「ラスクのふるさとやまがた・とうほく」をテーマに、東北を代表する銘菓としての存在を際立たせて、企業向け需要の掘り起こしなど、従来の販売ルートに拘らず果敢に挑戦して参ります。東北では仙台市場の拡大に向けて取り組みを強化すると共に、東北の素材を中心に「地産地消」「地産他消」を推し進め、東北から全国に元気を発信して参ります。

更には、国内に留まらず海外市場にも目を向けた取り組みを開始致します。

また、CS向上施策として、「東北地区で笑顔の接客NO1」の店舗を目指し、シベールのサービスの基本精神である「自分がして欲しいことを、お客様にしてあげること」の実践を行います。

食品製造販売を営む企業にとっては、「安全・安心」の商品提供は何よりも優先する課題です。全社員が常に緊張感を持って対処するよう、啓蒙・点検・マニュアルの遵守に努めて参ります。食品表示法の改定についても、全社員に理解を徹底するべく取り組みを強化して参ります。

企業の持続的発展が地域社会への貢献の唯一の道です。その為に「シベールファクトリーパーク」の更なる充実を図り、企業メセナと相俟ってお菓子文化と芸術文化を融合させ、日本に2つとない複合施設の存在を更に際立たせて全国から集客致します。お客様とのインテリジェンスの交歓により、生活文化の向上と企業のプレゼンスを高め、他社との差別化戦略を強化して参ります。

「ラスクのフロントランナー」としての誇りを胸に、シベールのビジョン・理念を大切にしながら企業価値の向上に努め、お客様満足を持続的に提供することにより、社会的責任を果たせる会社を構築して参ります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

**(5) 主要な事業内容** (平成27年8月31日現在)

当社の事業内容は、洋生菓子、ラスク、その他焼菓子等、パンの製造販売及びレストラン・喫茶の運営であります。

当社の事業は、販売チャネルにより、主に通信販売を行う「P I S (ピー・アイ・エス：Personal Intelligence System) 事業」と、店舗で対面販売を行う「M I S (エム・アイ・エス：Marketing Intelligence System) 事業」の2つに区分しております。

主な部門及び製品は次の通りであります。

部	門	主要製品名
P I S 事業	ラスク等の製造通信販売、卸売 百貨店内等での店舗販売	ラスク、その他焼菓子等、洋生菓子
M I S 事業	洋菓子、パンの製造販売 レストラン等の料飲事業	洋生菓子、ラスク、その他焼菓子等、 パン

なお、平成27年9月からP I S、M I Sの事業部制を廃止したことに伴い、事業内容も「通信販売事業」と「店舗販売事業」に名称変更しております。

(6) 主要な事業所 (平成27年8月31日現在)

名 称		所 在 地
(山形地区)		
本社、洋菓子工場		山形市
麦工房 (ラスク工場・受注施設)		山形市
店 舗 名	シベール ファクトリーメゾン	山形市
	シベールの杜 天童店	山形県天童市
	シベールの杜 北店、シベールズダイニング	山形市
	シベール 東店	山形市
	シベール 西店	山形市
	シベール 寿町店	山形市
	しべーる+カフェ	山形市
	シベール 寒河江店	山形県寒河江市
	麦工房 山形大沼店	山形市
	麦工房 エスパル山形店	山形市
麦工房 メゾン分店	山形市	
カフェ・ド・シベール (文翔館内)	山形市	
(仙台地区)		
事務所、洋菓子工場		宮城県柴田郡川崎町
店	ファクトリーテラス、そば <sup>やまかた</sup> 山彼方	宮城県柴田郡川崎町
	シベールの杜 桂店	仙台市泉区
舗	シベールの杜 河原町店	仙台市若林区
	シベールの杜 名取店、そば亭 <sup>やまかた</sup> 山彼方	宮城県名取市
名	シベールの杜 南中山店	仙台市泉区
	ル・グレン 八木山店	仙台市太白区
	シベールの杜 富沢店	仙台市太白区
(東京地区)		
麦工房 東京青山店		東京都港区
麦工房 ecute 立川店		東京都立川市
麦工房 川崎アゼリア店		川崎市川崎区

(注) 「麦工房 川崎アゼリア店」は、平成27年7月新規開設致しました。また、以下の店舗を閉鎖しております。店舗併設のレストラン「ル・グレンジダイニング」と「エルミタージュ」平成27年4月。「麦工房 仙台駅店」平成27年5月。「麦工房 名古屋店」平成27年8月。

**(7) 使用人の状況** (平成27年8月31日現在)

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
214 (189) 名	21名減 (9名減)	34.1歳	9.5年

(注) 使用人数は就業員数であり、臨時従業員 (パートタイマーを含み、派遣社員を除いております。) は、( ) 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

**(8) 主要な借入先の状況** (平成27年8月31日現在)

借入先	借入額
株式会社山形銀行	792百万円
株式会社日本政策投資銀行	140
株式会社七十七銀行	131
株式会社三井住友銀行	130
株式会社みずほ銀行	40
株式会社荘内銀行	40
株式会社商工組合中央金庫	40
株式会社日本政策金融公庫	34
日本生命保険相互会社	16

**(9) その他会社の現況に関する重要な事項**

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況 (平成27年8月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 6,000,000株
- ② 発行済株式の総数 1,806,800株 (自己株式370,000株を含む)
- ③ 株主数 7,067名
- ④ 大株主

株主名	持株数	持株比率
株式会社ムゲン	187,800株	13.07%
公益財団法人弦地域文化支援財団	145,000	10.09
東京中小企業投資育成株式会社	84,000	5.85
株式会社山形銀行	70,000	4.87
シベール社員持株会	21,100	1.47
株式会社きらやか銀行	15,000	1.04
株式会社三井住友銀行	14,000	0.97
黒田辰男	11,500	0.80
日本生命保険相互会社	11,200	0.78
日本製粉株式会社	10,000	0.70

(注) 当社は、自己株式370,000株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。  
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

- ⑤ その他株式に関する重要な事項  
該当事項はありません。

### (2) 新株予約権等の状況 (平成27年8月31日現在)

該当事項はありません。

### (3) 会社役員 の 状況

#### ① 取締役及び監査役の状況 (平成27年8月31日現在)

会社における地位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	佐 島 清 人	
代表取締役専務	黒 木 誠 司	
常 務 取 締 役	黒 田 辰 男	M I S 事業部長
常 務 取 締 役	本 田 政 信	P I S 事業部長兼商品計画室長
取 締 役	小 山 正 隆	管理部長
取 締 役	井 上 弓 子	高島電機(株) 代表取締役会長、(株)山形銀行 社外取締役
常 勤 監 査 役	我 妻 良 彦	
監 査 役	大 場 正 仁	山形酸素(株) 代表取締役社長、(株)荘内銀行 社外取締役
監 査 役	高 橋 勝 幸	高橋畜産食肉(株) 代表取締役社長

(注) 1. 取締役黒木誠司及び監査役高橋勝幸の両名は、平成26年11月23日開催の第44期定時株主総会において新たに選任され就任致しました。

#### 2. 事業年度中に退任した監査役

退任日	退任時の地位	氏 名	退任時の担当及び重要な兼職の状況
平成26年11月23日	監 査 役	田 中 裕 子	ジャーナリスト

(注) 監査役田中裕子は、辞任による退任であります。

3. 取締役井上弓子は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

4. 監査役大場正仁及び高橋勝幸の両名は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

5. 監査役我妻良彦は、金融機関における長年の経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

6. 当社は、取締役井上弓子を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

## ② 取締役及び監査役の報酬等に関する方針

取締役の報酬は月額報酬とし、平成14年11月22日開催の第32期定時株主総会において年額150百万円以内と決議いただいた範囲内で、役位毎の役割が業績に与える大きさや責任範囲等に基づき、取締役会において決定し、支給することとしております。

監査役の報酬等は、その職務の独立性を確保する観点から、業績とは無関係に月額とし、平成15年11月27日開催の第33期定時株主総会において年額6百万円以内と決議いただいた範囲内で、各監査役の協議に基づく適正な決定額を支給することとしております。

## ③ 取締役及び監査役の報酬等の額

区分	支給人員	支給額
取締役 (うち社外取締役)	6名 (1名)	51,880千円 ( 840千円)
監査役 (うち社外監査役)	4名 (3名)	4,630千円 (1,750千円)
合計	10名	56,510千円

## ④ 社外役員に関する事項

### イ. 重要な兼職先と当社の関係

区分	氏名	兼職状況
社外取締役	井上弓子	高島電機株式会社 代表取締役会長 株式会社山形銀行 社外取締役
社外監査役	大場正仁	山形酸素株式会社 代表取締役社長 株式会社荘内銀行 社外取締役
社外監査役	高橋勝幸	高橋畜産食肉株式会社 代表取締役社長

(注) 1. 山形酸素株式会社は、当社の取引先であります。

2. 株式会社山形銀行並びに株式会社荘内銀行は、当社の取引銀行であります。

3. その他の兼職先と当社間には、特別の関係はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

区分	氏名	主な活動状況
取締役	井上弓子	取締役会 17/17回 100%出席 他の上場企業における社外取締役及び会社経営並びに女性経営者の交流会等の経験から、適宜発言を行っております。
監査役	大場正仁	取締役会 16/17回 94%出席、監査役会 16/17回 94%出席 他の上場企業における社外取締役を兼務していること並びに会社経営の実績と経験から、適宜発言を行っております。
監査役	高橋勝幸	取締役会 13/13回 100%出席、監査役会 13/13回 100%出席 平成26年11月23日の就任以来、会社経営の実績と経験から、適宜発言を行っております。

ハ. 責任限定契約の内容の概要

当社と社外役員全員は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を有しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

(4) 会計監査人の状況

① 会計監査人の名称

新日本有限責任監査法人

② 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

区分	支払額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	18,500千円
当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	18,500千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当該事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 当社監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積の算出の根拠等が適切であるかどうかについて、検討した結果、会計監査人の報酬等の額について同意しております。

③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

④ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会社法第340条第1項に掲げられている事由及びこれに準ずる事由等を会計監査人の解任または不再任の決定方針としております。

## (5) 業務の適正を確保するための体制

取締役の業務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制についての決定内容の概要及び当該体制の運用状況の概要は以下の通りであります。

### ① 取締役及び社員の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- イ. 代表取締役社長を委員長とする「シベール コンプライアンス・リスク委員会」を設置し、当社の経営理念に基づく「シベール行動規範」を制定しております。
- ロ. 内部監査室は、コンプライアンスの状況を監査し、その結果はその重要性に応じ代表取締役及び監査役に報告します。
- ハ. コンプライアンス上疑義のある行為について社員が直接情報提供を行うための窓口を設け、企業活動の健全性と適合性を確保しております。

### ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- イ. 文書管理規程に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書又は電磁媒体（以下、文書等という）に記録し、保存致します。
- ロ. 取締役及び監査役は、常時、これらの文書等を閲覧できるものとします。

### ③ 損失の危険の管理に関する体制

- イ. 「シベール コンプライアンス・リスク委員会」は、各種リスクに適切に対処するため、総括的なリスク管理体制及び管理手法を整備致します。
- ロ. 内部監査室は、リスク管理状況を監査し、代表取締役及び監査役に当該結果を報告することと致します。

### ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- イ. 取締役会は、中期経営計画を策定し、その達成のための諸施策を年度事業計画に反映させ、予算化等を行い、月次の取締役会で取締役の業務執行状況の監視・監督を行います。
- ロ. 取締役会は、取締役及び社員が共有する全社的な目標に対するレビュー・分析、付議案件及び改善策の検討・指示など、多面的な議論・審議・決議を行います。
- ハ. 組織規程等により、各組織単位の職務権限及び意思決定のルールを定め、効率的な職務の執行を行います。

### ⑤ 監査役がその職務を補助すべき社員を置くことを求めた場合における当該社員に関する事項

監査役が必要とした場合は、監査役の職務を補助する兼務社員を管理部総務人財課に置き、監査役の指揮命令に服するものとします。

**⑥ 前項の社員の取締役からの独立性に関する事項**

当該社員の人事異動及び人事評価等に係る事項については、監査役に報告し、監査役の意見を尊重した上で行うものと致します。

**⑦ 取締役及び社員が監査役に報告をするための体制その他監査役への報告に関する体制**

- イ. 監査役は、取締役会のほか、重要な任意の会議に出席し、取締役等からその職務の執行状況を聴取し、関係資料を閲覧することができます。
- ロ. 取締役及び社員等は、業務又は財務の状況に重大な影響を与える事柄について、監査役への報告義務を有するとともに、監査役の要求に従い、自己の職務の執行状況を監査役に報告致します。

**⑧ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

監査役は、内部監査室及び監査法人と密接な情報交換及び連携を図ります。

また、代表取締役と監査役との定期的な会議を開催し、相互認識を深める体制としております。

**⑨ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方と体制整備**

- イ. 当社は、健全な社会秩序維持に貢献するため反社会的勢力とは取引その他一切の関係をもちません。また、反社会的勢力による不当要求等には組織全体として毅然とした態度で臨みます。
- ロ. 管理部を統括部門として、弁護士、警察、暴力追放運動推進センター等の外部専門機関と連携を密にし、情報の収集・管理を行いながら、反社会的勢力による被害を防止するために、組織的かつ適正に対応します。

**⑩ 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要**

当社は、上記の内部統制システムの整備を行い、取締役会において継続的に経営上の新たなリスクの対応策について検討しております。それらにより、必要に応じて、社内の諸規程及び業務の見直しを実施し、内部統制システムの実効性を向上させております。

また、常勤監査役は、監査役監査の他、管理職者の面談や社内の重要な会議への出席等を通じて、業務執行の状況やコンプライアンスに関するリスクを監視できる体制を整備しております。また、内部監査室も内部監査の定期的な実施により、日々の業務が法令・定款、社内規程等に違反していないかを検証しております。

**(6) 株式会社の支配に関する基本方針**

当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針については、特に定めておりません。

## 貸借対照表

(平成27年8月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>336,270</b>	<b>流動負債</b>	<b>616,466</b>
現金及び預金	110,384	買掛金	94,415
売掛金	75,014	1年内返済予定の長期借入金	289,684
商品及び製品	12,040	未払金	124,077
仕掛品	11,573	未払費用	18,455
原材料及び貯蔵品	66,038	未払法人税等	9,777
未収入金	14,084	未払消費税等	38,570
前払費用	26,971	前受金	1,196
繰延税金資産	19,789	預り金	6,995
その他の貸倒引当金	1,421	賞与引当金	15,000
	△1,048	ポイント引当金	17,328
<b>固定資産</b>	<b>3,150,791</b>	その他の負債	966
<b>有形固定資産</b>	<b>2,882,500</b>	<b>固定負債</b>	<b>1,113,385</b>
建物	1,562,074	長期借入金	1,074,080
構築物	61,144	資産除去債務	33,710
機械及び装置	103,051	その他の負債	5,595
車両運搬具	4,550		
工具、器具及び備品	53,859	<b>負債合計</b>	<b>1,729,852</b>
土地	1,097,820	<b>(純資産の部)</b>	
<b>無形固定資産</b>	<b>14,801</b>	<b>株主資本</b>	<b>1,744,938</b>
借地権	4,349	資本剰余金	488,355
ソフトウェア	6,319	資本剰余金	554,141
その他の投資	4,133	資本準備金	554,141
<b>投資その他の資産</b>	<b>253,489</b>	<b>利益剰余金</b>	<b>1,553,442</b>
投資有価証券	67,914	利益準備金	7,830
出資	842	その他利益剰余金	1,545,612
長期前払費用	19,511	別途積立金	1,400,000
繰延税金資産	18,121	繰越利益剰余金	145,612
敷金及び保証金	95,545	<b>自己株式</b>	<b>△851,000</b>
建設協力金	52,162	評価・換算差額等	12,270
貸倒引当金	△607	その他有価証券評価差額金	12,270
<b>資産合計</b>	<b>3,487,062</b>	<b>純資産合計</b>	<b>1,757,209</b>
		<b>負債及び純資産合計</b>	<b>3,487,062</b>

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 損 益 計 算 書

(平成26年 9月 1日から  
平成27年 8月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	3,416,004
売上原価	1,813,362
売上総利益	1,602,642
販売費及び一般管理費	1,539,790
営業利益	62,851
営業外収益	
受取利息	34
受取配当金	851
受取貸付料	10,163
貸倒引当戻入	364
雑収	1,596
営業外費用	
支払利息	15,201
雑損	1,877
経常利益	58,784
特別利益	
補助金収入	500
特別損失	
固定資産除却損	1,371
固定資産売却損	18
税引前当期純利益	57,895
法人税、住民税及び事業税	6,732
法人税等調整額	24,299
当期純利益	26,863

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 株主資本等変動計算書

(平成26年9月1日から  
平成27年8月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式
			資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金	
		別途積立金			繰越利益剰余金	
当期首残高	488,355	554,141	7,830	1,600,000	△38,146	△851,000
当期変動額						
剰余金の配当					△43,104	
別途積立金の取崩				△200,000	200,000	
当期純利益					26,863	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	△200,000	183,759	-
当期末残高	488,355	554,141	7,830	1,400,000	145,612	△851,000

	株主資本	評価・換算差額等	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
当期首残高	1,761,179	12,006	1,773,186
当期変動額			
剰余金の配当	△43,104		△43,104
別途積立金の取崩	-		-
当期純利益	26,863		26,863
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		264	264
当期変動額合計	△16,240	264	△15,976
当期末残高	1,744,938	12,270	1,757,209

(記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの……期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの……投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

##### ② たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品・仕掛品 …………… 月別総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

原材料・貯蔵品（包材資材） …… 月別総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

貯蔵品（消耗品） …………… 最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産……………定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物 17年～39年

機械及び装置 10年

##### ② 無形固定資産……………定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

##### ③ 長期前払費用……………定額法

(3) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金……………従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づく当期対応額を計上しております。
- ③ ポイント引当金……………販売促進を目的とするポイントカード制度に基づき、顧客へ付与したポイントの使用による費用の発生に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。

(4) 消費税等の会計処理 ……税抜方式によっております。

**2. 貸借対照表に関する注記**

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	3,074,891千円
(2) 担保に供している資産	
建          物	98,935千円
土          地	39,900千円
計	<u>138,835千円</u>

上記の資産を長期借入金34,164千円（1年内返済予定の長期借入金32,084千円を含む）の担保に供しております。

(3) 有形固定資産の取得価額から直接減額した圧縮記帳累計額	208,464千円
--------------------------------	-----------

**3. 損益計算書に関する注記**

固定資産除却損は、工具、器具及び備品378千円、その他992千円であります。

#### 4. 株主資本等変動計算書に関する注記

##### (1) 発行済株式の数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式 (株)	1,806,800	－	－	1,806,800

##### (2) 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式 (株)	370,000	－	－	370,000

##### (3) 剰余金の配当に関する事項

###### ① 当事業年度中に行った剰余金の配当

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当金 (円)	基準日	効力発生日
平成26年11月23日 定時株主総会	普通株式	43,104	30	平成26年8月31日	平成26年11月26日

(注) 平成26年3月1日付けで、1株につき100株の株式分割を行っております。1株当たり配当金は、当該株式分割後の金額を記載しております。

###### ② 当事業年度の末日後に行う剰余金の配当

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当金 (円)	基準日	効力発生日
平成27年11月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	43,104	30	平成27年8月31日	平成27年11月25日

## 5. 税効果会計に関する注記

### (1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
賞与引当金	4,923千円
ポイント引当金	5,687
減損損失	58,357
資産除去債務	10,808
法定福利費否認	692
税務上の繰越欠損金	4,968
その他	16,441
繰延税金資産小計	101,876
評価性引当額	△57,948
繰延税金資産合計	43,928
繰延税金負債	
資産除去債務に対応する除去費用	5,228
その他有価証券評価差額金	788
繰延税金負債合計	6,017
繰延税金資産の純額	37,910

### (2) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、平成27年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率等が変更されることとなりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成27年9月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の35.38%から32.82%に、平成28年9月1日以降に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については32.06%に変更されております。

この結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が3,340千円減少し、法人税等調整額が3,340千円増加しております。

## 6. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取り組み方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については事業計画に照らし、必要に応じ短期資金及び長期資金を調達しております。また、デリバティブを含む投機的な取引は行わない方針であります。

#### ② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

投資有価証券は、主に上場株式であり市場価格変動のリスクに晒されていますが、四半期ごとに把握された時価が取締役会に報告されております。

長期借入金は、全て固定金利による借入金であり、金利変動のリスクを回避しております。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成27年8月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含まれておりませんので、(注2)をご参照下さい。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	110,384	110,384	—
(2) 投資有価証券 その他有価証券	67,081	67,081	—
資産計	177,466	177,466	—
(3) 長期借入金	1,363,764	1,363,161	△602
負債計	1,363,764	1,363,161	△602

#### (注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

##### 資産

#### (1) 現金及び預金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### (2) 投資有価証券

株式は取引所の価格によっております。また、投資信託は公表されている基準価格によっております。

##### 負債

#### (3) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金の時価は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券 その他有価証券 (投資事業有限責任組合への出資) ※1	832
出資金 ※2	842

※1 その他有価証券 (投資事業有限責任組合への出資) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(2) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

※2 出資金につきましても同様の理由により上記の表に含めておりません。

(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 (千円)
現金及び預金 預金	87,927	-

(注4) 長期借入金の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	289,684	259,680	248,400	198,000	118,000	250,000

## 7. 賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産は、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## 8. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (会社等)	公益財団法人弦地域文化支援財団	山形県山形市	-	公益財団法人	被所有 直接 10.1	-	土地の賃貸	4,251	-	-

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

賃貸料につきましては、市場価格を勘案し一般取引条件と同様に決定しております。

## (2) 役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	大場正仁	-	-	当社監査役 山形酸素株式会社 代表取締役社長	-	-	ガスの購入等	21,204	未払金	2,025

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれておりません。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針  
当社が消費するガスの一部について当社監査役大場正仁が代表取締役社長である山形酸素株式会社(山形県山形市、資本金1億円)から購入しております。金額につきましては市場価格を勘案し一般取引条件と同様に決定しております。

## 9. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 1,223円00銭
- (2) 1株当たり当期純利益 18円70銭

## 10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

# 会計監査人の監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成27年10月21日

株式会社シベール

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 渡 辺 雅 章 ㊞  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 有 倉 大 輔 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社シベールの平成26年9月1日から平成27年8月31日までの第45期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

# 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成26年9月1日から平成27年8月31日までの第45期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告致します。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明致しました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討致しました。さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討致しました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成27年10月25日

株式会社シベール 監査役会

常勤監査役 我 妻 良 彦 ㊟

監 査 役 大 場 正 仁 ㊟

監 査 役 高 橋 勝 幸 ㊟

(注) 監査役大場正仁及び監査役高橋勝幸は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案及び参考事項

### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、以下の通りと致したいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

当社は株主の皆様に対する利益の還元が、企業経営の観点から極めて重要な政策であると考えており、長期的な観点に立って配当を継続的かつ安定的に行うことを基本方針としております。

この方針に基づき、当期の期末配当につきましては、以下の通りと致したいと存じます。

- (1) 配当財産の種類  
金銭と致します。
- (2) 配当財産の割当に関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金30円 総額43,104,000円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
平成27年11月25日

### 第2号議案 監査役1名選任の件

監査役 我妻良彦氏は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案の提出にあたっては、監査役会の同意を得ております。  
監査役候補者は、次の通りであります。

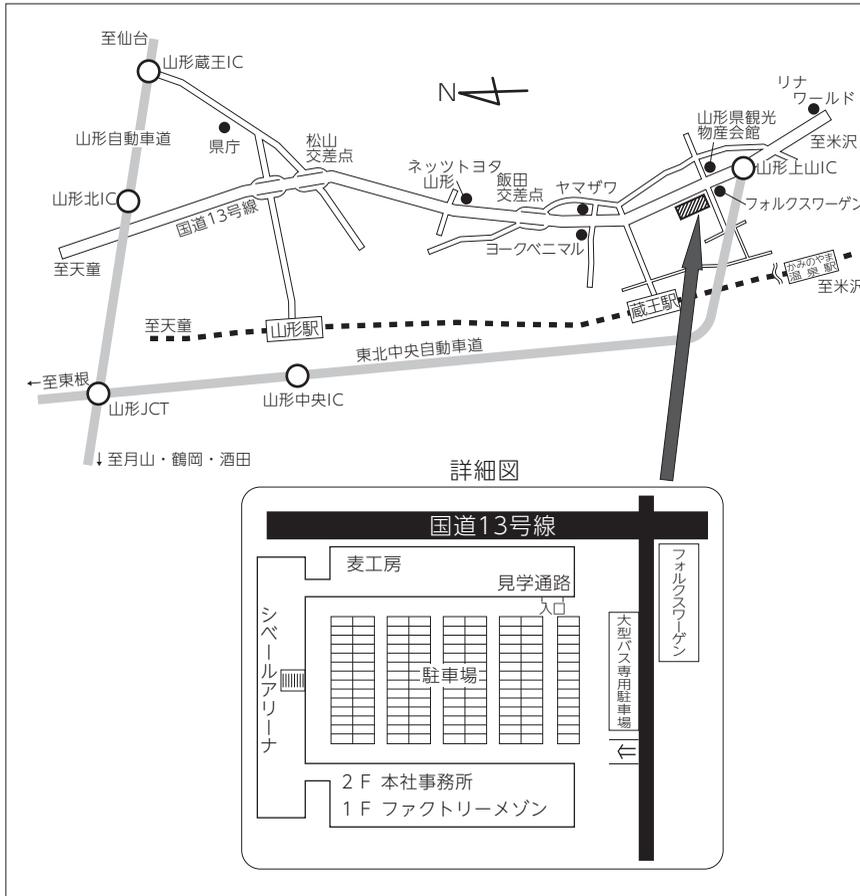
氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
わがつま よしひこ 我妻 良彦 (昭和22年1月31日)	昭和40年4月 (株)山形銀行入行 平成11年6月 同行取締役営業推進部長兼業務企画部長 平成12年4月 同行取締役営業統括部長 平成17年6月 同行取締役米沢支店長 平成18年6月 やまぎんディーシーカード(株)(現やまぎんカードサービス(株)) 代表取締役社長 平成24年11月 当社常勤監査役(現任)	－ 株

(注) 監査役候補者と当社の間には特別の利害関係はございません。

以上

# 会場ご案内図

会 場 山形市蔵王松ヶ丘二丁目1番3号  
シベールアリーナ  
電 話 (023) 689-1131 (代表)



☆新幹線ご利用の場合

J R山形駅より車で20分  
J Rかみのやま温泉駅より車で15分

☆お車ご利用の場合

山形自動車道 山形蔵王インターより20分  
東北中央自動車道 山形上山インターより2分



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。